

こじかれポート [こじかを意識した授業を作るために]

国語科

記入者（報告者） 奥田杏奈

①こじかーどの活用方法（具体的な実践例）

1年生

蓬莱の玉の枝—「竹取物語」から

- ・くらもちの皇子がどんな人物であったかを「こじか」で説明する。
- ・くらもちの皇子以外の4人の貴公子についても「こじか」で説明する。

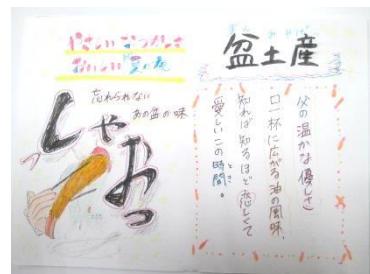
授業のふりかえり

- ・教材終了時に、テーマを定めて「こじか」でふりかえりをする。

2年生

盆土産

- ・この文章の「名場面」と感じた部分を、「こじか」で紹介する。200字程度の作文にし、ミニフリップを作成して、班で「名場面」発表会を実施。作文の中で、根拠を示すことを指示。また、簡潔に話せるように、フリップを作成した。



扇の的—「平家物語」から

- ・「扇の的」の最終部分である「あ、射たり。」「情けなし。」の二つの反応について、「こじか」を意識して、グループディスカッション（ディベート）をする。まず、自分ならどちらの立場を取るか考えた。次に、自分の考えとは別に、班でいずれかの立場になってディベートをした。



3年生

挨拶—原爆の写真によせて

- ・題名に込められた作者の思いを「こじか」で説明する。

故郷

- ・魯迅が工夫した表現や描写で中国の人々に何を伝えようとしたのか「こじか」で説明する。

②1 単元を選び計画または実施内容

3年生

«いにしえの心と語らう 作品の背景を想像して読み、古典の心を今に生かす»

古典 君待つとー「万葉・古今・新古今」から

【目標】・効果的な表現や語句の使い方に着目して、和歌を読み味わう。

- ・和歌に表れた昔の人の心情や情景を読み取る。

〈1時間目〉

- ・三大和歌集の特徴について整理し、まとめる。
- ・三大和歌集の特徴を比較し、和歌集がどのように変化していったかを捉える。

〈2時間目〉

- ・和歌についての基礎知識を学ぶ。(句切れ・表現技法など)

〈3・4時間目〉こじかの時間

- ・万葉集の魅力を編纂者大伴家持になったつもりで「こじか」でみんなに説明する。
→①教科書に出てくる万葉集8つの和歌を2人・3人グループに1つ割り当てる。
②割り当てられた和歌について、句切れや表現技法、内容の良さ、和歌が詠まれた背景、作者等を調査する。(根拠を集める。)
③集めた根拠をどの順序で、どう簡潔に伝えるかを班で考える。
④(4時間目) クラスのみんなに向けて、和歌の良さを「こじか」で説明する。

〈5時間目〉

- ・和歌の読み方や良さを万葉集で知ったように、古今和歌集と新古今和歌集を読解する。

〈6時間目〉こじかの時間

- ・万葉、古今、新古今から和歌を1つ選び、和歌に描かれた心情をショートストーリーにライトする。
→①一人称(自分語り)で書く。
②歴史的な背景を捉えた上で、いつ・どこ・何・どんな・どのようになど設定を明確にし(和歌の中の言葉から根拠を見つけだし)、具体的なエピソードを付け加えながらこじかで書く。
・相互評価をする。

②の実施内容で生徒に実現させたい姿(こじかに関わる内容として)

○根拠となる事柄を、作品や資料の中から読み取る力をつける。

○根拠を基に、自分の考えを順序立てて分かりやすく伝える力をつける。

○相手により伝わるように話す力、書く力をつける。

○互いの発表を聞いて、作品の世界を広げ、深める。

○主体的に学ぶ。

